

道志村総合計画

人と自然が輝く 水源の郷

～ 一人ひとりが輝く 住んでよかった村づくり ～

2026-2033



道志村

1.1. 総合計画の趣旨

道志村総合計画は、本村の将来の健全な発展を促進するために、村と村民が目指すべきむらの将来像を共有しながら、その実現に向けて計画的に行政運営を行っていくための基本的な考え方や目標を定めた、本村の最上位の計画です。

より良いむらづくりのためには、社会情勢や市民ニーズの変化に的確に対応した、時代の流れに合った、望ましい地域の将来の姿やむらづくりの方向性、目指すべき目標を設定し、これを実現するための地域の経営を進めていくことが重要です。

これらに対応した新たな道志村総合計画（以下、「本計画」という。）の策定のため、本村の目指すべき将来像を明らかにするとともに、総合的かつ戦略的な村政運営を推進するために、村民にむらづくりの長期的な展望を示すものとして、新たな道志村総合計画を策定します。

1.2. 本計画の構成と期間

本計画は、計画全体のあり方や個々の計画の役割などを踏まえて、「基本構想」と「基本計画」の2層構造とします。



2. むらづくりの方針

2.1. 目指すべき将来像

道志村は、明治 22 年の村制施行以来 120 年以上に及ぶ歴史の中で、山伏峠を源流とする道志川の清らかな流れと共に現在の礎を築いてきました。この美しい清流と緑を未来に引き継ぐためにも、村の将来を見据えた持続可能な村づくりをしていく必要があります。

また、早期着工を目指している、道志村と都留市を結ぶ「新道坂トンネル」が開通すれば、本村の暮らしは大きく変わります。安全・安心のための防災対策はもちろん、通勤・通学など利便性の向上が見込まれることで、観光振興や関係人口*の増加など村の活性化が図られます。こうした未来の早期実現のためには、村がひとつになってむらづくりに取り組むことが必要です。これらを踏まえ、本村の明るい未来に向かって、誰ひとり取り残さない、1 人ひとりが輝く、住んでよかった村づくりを目指します。



人と自然が輝く 水源の郷

～ 一人ひとりが輝く 住んでよかった村づくり ～

2.2. むらづくりの指標 ～村民の幸福の実現～

誰もが幸せを実感できるむらづくりを目指し、地域における村民の幸福度を、本計画の最上位の成果指標として位置づけます。

令和7（2025）年度の道志村民（18歳以上で高校生を除く）の幸福度の平均は、5点満点中の3.52点と比較的高くなっています。一方、村民の8年後の幸福度は3.09点で、現在の幸福度よりも0.43点低くなっています。また、地域満足度の平均は、5点満点中の3.16点と若干高くなっています。

こうしたことから、本計画では、村民の現在及び将来にわたる幸福度と地域満足度をさらに高めていくことにより、誰ひとり取り残されることなく、将来に対して明るい未来を持つことができるむらの実現を目指します。

① 本計画におけるむらづくりの目標

現在の村民の幸福度：	令和 7 （2025）年度	3.52 点
	令和 15 （2033）年度	3.65 点（+1.3）
現在の村民の地域満足度：	令和 7 （2025）年度	3.16 点
	令和 15 （2033）年度	3.35 点（+1.9）

② 成果目標の考え方

現在の村民の幸福度

令和7（2025）年度の村民の平均は3.52点ですが、今後どの世代に関わらず地域において安心して幸せに暮らすことができるよう、各種施策・事務事業を行うことにより、**幸福度の平均を3.65点、地域満足度を3.35点**とすることを目指します。

幸福度とウェルビーイング*について

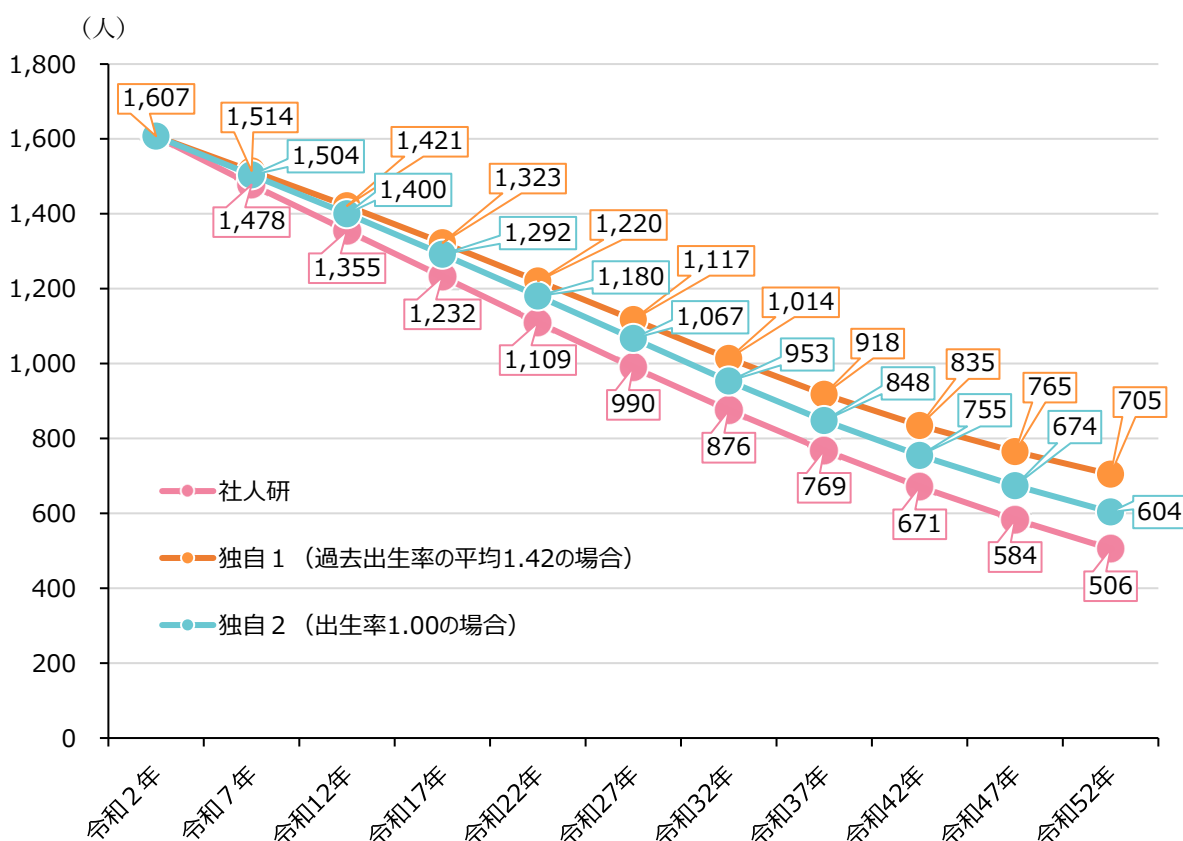
今日の成熟社会において、これまでのGDP*（国内総生産）といった物質的、経済的な豊かさから、心の豊かさや幸福度といった一人ひとりが実感できる真の豊かさを重視する動きがみられます。こうした中で、内閣府が推進する「デジタル田園都市国家構想」では、目指す「心ゆたかな暮らし」（Well-Being：ウェルビーイング）と「持続可能な環境・社会・経済」（Sustainability）の実現に向けた取組の指標として、地域幸福度（Well-Being：ウェルビーイング）指標が提案されています。この中で、村民一人ひとりが感じる「幸福度」は、総合指標のひとつとして位置づけられています。

2.3. 将来推計人口

本村の将来推計人口を推計すると、以下のとおりとなります。

令和2年国勢調査における本村の人口は、1,607人でしたが、平成27年国勢調査と比較して136人減少しています。また、人口動態保健所・市区町村別統計における合計特殊出生率の結果によると、平成30年から令和4年の数値は1.36と、過去15年の中で最も低い数値となっており、この合計特殊出生率の結果による国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研という。）の将来人口推計は、令和27年に1,000人を割ってしまうことが予測されています。

このことから、人口減少対策のため、村独自の「子育て支援パッケージ」等の充実した子育て支援を展開していくことにより、0から14歳の年少人口や生産年齢人口の15から64歳の人口増加を目指します。具体的には、子育て世代が安心・安全に子育てできる環境づくりを通じて自然増を図り、合計特殊出生率1.42を達成することで、人口減少を緩やかにしていきます。また、移住・定住の推進をしてより暮らしやすい村づくりをすることで、社会増を目指します。



3. 将来像を実現するための5つの政策

政策1 自然環境・生活基盤の整備推進

四季折々の変化に美しく映える山々と村の中心を流れ、横浜市の水源となっている「道志川」は、村民だけでなく村外から訪れる人々に潤いと安らぎをもたらしています。こうした環境を後世に引き継ぐため、水源地や溪流などの積極的な保全と、美しい景観の形成を図ります。

また、村民の快適で安全な生活インフラの確保や関係人口の増加のため、国道・県道の幹線道路*の整備促進を要望するとともに、村道や農道・林道の整備を行います。さらに、村民の安全・安心のための防災対策はもちろん、交通インフラとして村民の暮らしが大きく前進することから、本村と都留市を結ぶ「新道坂トンネル」の早期完成を目指します。

主な施策

- 自然環境及び地域景観の保全
- 公共交通の維持・充実
- 交通安全・防犯対策の充実
- 防災体制の充実

政策2 産業・地域経済活性化の推進

明治30年から続いている横浜市との友好関係を継続するとともに、豊かな自然と清流をPRすることにより、別荘、民宿、キャンプ場などを活用した、新たな観光コンテンツの創出による滞在型観光*を推進します。

また、道志村全体を自然豊かな公園として位置づけ、春の桜や秋の紅葉などの計画的な植栽により、四季折々の景観を観光資源として活用します。さらに、道の駅を中心に、夏季だけでなく年間を通じたイベント等を開催することで、観光を中心としたさらなる地域経済の活性化を推進します。

主な施策

- 商工業の振興
- 農林業の振興
- 観光産業の振興

政策3 教育の推進

子どもの豊かで幸せな成長を促進するため、小中一体による少人数教育の利点を活かし、きめ細やかな指導による質の高い教育を行います。また、都会の子どもとの教育格差を是正し、誰ひとり取り残さない学習環境を構築するために、村営の学習塾の開設やスポーツ施設の整備などの学習環境の改善を図ります。

さらに、生涯にわたり誰もが生きがいを持って幸せに暮らせるよう、生涯学習やスポーツを振興します。

主な施策

- 学校教育の充実
- 生涯学習・スポーツ・文化の振興

政策4 健康・福祉環境の充実

健康寿命*を延ばし、高齢者が生きがいを持つことができるよう、高齢者の暮らしの困りごとに対する支援を充実するとともに、介護予防の支援を拡充します。

また、「子育て世代の意見交換会」を通じて子育て世代から意見を聴くことによる子育て支援の充実や、保育所での英語教育の推進や母子の健康の確保・支援を図ります。このように、地域全体で子どもたちがのびのびと成長できる環境を整えることにより、子育ての先進地域を目指します。

主な施策

- 子育て支援の充実
- 地域福祉の充実
- 地域の健康増進

政策5 将来に向けたむらづくりの推進

人口減少社会が進み、国、地方ともに危機的な財政状況にある中で、効率的な施策・事業の実現に向けた検証・見直しのサイクルを確立することにより、財政の健全化と持続可能な行政運営を推進します。

また、村民と行政の対話と協調により、明るい未来に向けて村民と行政が一体となった村づくりを推進します。

主な施策

- 効率的な行政の確立
- 移住・定住の推進

3.1. 施策の体系図

